

2024 年 6 月 20 日

学校法人三幸学園
福岡ビューティーアート専門学校
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 丸山 美由紀

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 竹内 弘行 (株式会社かいのホールディングス 代表取締役)
- ② 丸山 美由紀 (有限会社西岡総業 業務部係長)
- ③ 能勢 健次 (株式会社 TAT 西日本営業部課長)
- ④ 梅原 彩 (一般社団法人 日本化粧品検定協会 法人サポート部部长)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024 年 6 月 20 日 (会場 福岡ビューティーアート専門学校 401 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人 三幸学園 福岡ビューティーアート専門学校 学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 本多 未佐・眞光 涼

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 丸山 美由紀

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【教育理念・目標】

現場での経験を学生の技術面向上につなげるため、インターンシップでの単位修得を積極的に行ったが、学科により受け入れ企業数に差があり、受け入れ企業の新規開拓の強化が必要。インターンシップの受け入れが困難な場合は、同等の教育機会の創出が必要。

【学校運営】

教職員に向けた ICT リテラシー向上の為、使用ツールのマニュアル化(可視化)し、日常から活用できる環境の整備に取り組んだ。

【教育活動】

教員の自己啓発に関する授業の指導資格取得者を増やす目標を設定していたが、人員配置や資格要件の観点から取得者を増やす事が出来なかったため、今後の課題としている。

【学習成果】

学生指導の個への対応を強化するため、担任間で学生情報を共有する学科会を週内で固定して実施した。学生情報をタイムリーに共有でき且つその後の具体的な対応方法を決定することができ、対応後の結果についての共通理解も図れるようになった。今後は講師陣との連携についても具体的な取り組みを強化する。

【学生支援】

就職指導を行うにあたり、学生と企業とのミスマッチの防止と、現状把握するため早期に就職アンケートを実施し、結果に基づいて就職へのアプローチを行った。

【教育環境】

海外研修は、コロナ禍前同様に実施することができた。今後は参加者を増やす為、内容の充実と学生への

周知方法を統一化する。

【学生の受け入れ募集】

教員主導による学校説明を積極的に行い、オープンキャンパスの内容を見直し大幅に変更した。

オンラインオープンキャンパスについては、オンラインの需要が減少傾向にある為、自分のタイミングで視聴できる学校説明のオンデマンド化を促進する。

【社会貢献・地域貢献】

・地域社会との繋がりを図るため博多まちづくり推進協議会主催のクリーンデイ、その他博多区主催のイベントへの参加や北九州市よりTGCへのオファーを受けるなど教職員・学生ともに積極的に参加している。

・専門実践教育訓練給付制度にてヘアメイク科を申請し指定を受けた。今後は制度利用者の受け入れを積極的に行う。

② 学校関係者評価委員会コメント

〈竹内委員〉美容科・トータルビューティー科

インターンシップにて学校と企業との連携をはかり現場で即戦力となる人材育成を共に行う事が重要。今後も引き続き継続してほしい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

生徒へ学校の理念・目的・育成人物像を共有する機会はあるものの、保護者等への周知の機会は入学時の「保護者会」時と限定されている。

② 今後の改善方策

入学時の保護者説明会は継続し実施する。対面形式からオンライン又はいつでも視聴可能なオンデマンド形式で検討。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈能勢委員〉美容科・トータルビューティー科

採用に際し、SNSを活用している。また、説明会では、代表のみならず現場スタッフも参加し企業理念を伝え

る事で、入社後のイメージをより持って貰える様な取り組みを行っている。YouTube では担当者を設け業界の事なども発信しているが、取引先からの反応も良く新規獲得に繋がっている。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

ICT ツールは充実しているものの、使用の際の目的やルールの設定が必要。

② 今後の改善方策

ルールの設定と効率化が図れる機能の活用について職員会議やマニュアル等で周知徹底する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈竹内委員〉美容科・トータルビューティー科

育成の部分で動画を活用する事やリモートの利便性も活用しつつも、直接会ってのコミュニケーションが何よりも大切。現場のリアルな声を企業運営に積極的に取り入れている事でより良い運営を目指している。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われて	3

いるか	
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・キャリア教育について、学生の希望職種や希望の勤務地などタイムリーに掴めていない。
- ・業界団体等との連携はできているものの、カリキュラムの見直し等の連携にまでは至っていない。
- ・資格取得に向けた指導体制についての強化が必要。

② 今後の改善方策

- ・学生状況把握のための定期ヒヤリングと、ニーズに合わせた求人獲得を行う。
- ・実践的な職業教育を行う為に企業、業界団体等からカリキュラム等についての意見のヒヤリングを実施し、選択授業へ反映する。
- ・資格取得率向上のための学びのサポート強化週間の設定。同科目を持つ複数の教員間の課題、進捗の共有を行い教育の質の担保を行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈梅原委員〉美容科・トータルビューティー科

まずは検定内容を理解したうえで、情報や知識をアウトプットする事が何よりも大切である。知識・技術を学び実践できる力を繰り返し行う事で、学んだ内容が活きてくる。

(4)学修成果

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3

退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・就職率は向上しているが、業界内就職希望者が減少しており、就職後のキャリアビジョンや魅力を十分に伝えられていない。
- ・退学率は昨年度から増加傾向にある。上記の業界の魅力づけが薄く、進路変更や就学意欲の低下に繋がっている。
- ・就職することがゴールになりがちのため、長期的なキャリア形成を視野に入れた就職指導が必要。

② 今後の改善方策

- ・定例実施とした学科会による学生情報の早期共有と早期対応を行う。状況によっては合理的配慮の検討とその施策に努める。
- ・業界のトレンドを把握し、魅力的な授業展開へ繋げるために教員陣の授業内容の見直しを行う。
- ・資格取得率向上に向けた、学びのサポートのための強化週間の事前設定を行い実施する。
- ・授業内や授業外で特別授業を設け、企業様と連携した業界の魅力付けの機会を増やし、授業を担当する全教員で取り組む。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈能勢委員〉トータルビューティー科

資格取得に向けた授業も重要だが、実際の現場でも必要なトレンドを取り入れた授業を展開する事で、業界の魅力を伝える事ができる。しかし、トレンドの移り変わりは激しいので、最新のデザイン性のあるものや最新の技術などでまずは学生に業界の楽しさを伝えてみてはどうか。

〈竹内委員〉美容科

学生に対し卒業生の現役スタッフが業界の魅力を伝える事が効果的ではないか。また、そこから企業との連携も深まり学生の今後にも大きく繋がる。美容業界の魅力については企業側も検討していく必要がある。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4

学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・中途退学者への支援体制が必要である。
- ・積極的な高専接続の取り組み、職業教育が必要である。

② 今後の改善方策

- ・中途退学者への支援については、退学後の支援体制の整備は難しい。
 - ・高専接続については、地域広報室との連携により職業教育機会を創出しているため、今後も強化していく。
- 現状、通信制高等学校へ授業実施。
- ・高校側からの学校見学等の積極的な受入れを行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈丸山委員〉美容科・トータルビューティー科

校舎において学生が過ごしやすい環境を整える事も重要。各教室や共用スペースの利用に際し、使用方法の指導を検討するところもある。学校側で継続し指導を行って欲しい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

インターンシップや海外研修についての機会はコロナ禍前同様に整備できたが参加者が少ない。

② 今後の改善方策

内容決定の早期化と統一した学生への早期案内を徹底する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜能勢委員＞トータルビューティー科

ネイル業界では小規模展開が多く、インターンシップの受入体制が整っていない所も多い。まずは、受入期間などを考慮しながらスモールステップから進めていく事や、卒業生が活躍している現場との企業連携をはかり進めていくと良いのではないかな。

(7)学生の実入れ募集

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

入学前後のギャップがある。実技科目と座学科目の数/コース選択時の事前説明会の充実が必要である。

② 今後の改善方策

成果の見える化を行う。（授業の内容/コース選択スケジュール/資格検定の数や時期）

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜能勢委員＞トータルビューティー科

業界へ入社した際のギャップを無くす為にも、業界の魅力だけではなくその中での課題も伝え、共に取り組んでいく中で一緒に業界を盛り上げていきたいと伝えている。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

適切な学校運営と情報公開を継続していく。

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

現状は地域に対する公開講座等の取り組みは積極的に参加していない。

② 今後の改善方策

上記の公開講座以外のイベント等に参加しているため、現在参加している諸活動の内容を充実させることを優先させる。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

〈眞光副校長〉

時代とともに新たな価値観やニーズを持って入学してくる学生が多くなり、学校運営も変化していくことが必要になってきた。それらのニーズの早期把握や業界の潮流の把握、求められる人材についても理解し、日々の指導をしていくことで即戦力となる人材育成にあたる。

今後はいただいた意見を参考に、スポット授業、短期・長期インターンシップ、学内行事を活用した企業様と学生との接点を増やしていきたい。